

2024年度「書物との出会い イ（近代ヨーロッパと現代）」リーディングリスト

*各項目に含まれる内容 (1) 書誌情報 / (2) その本が関連する学問領域 / (3) キーワード : その本が関連するテーマなど / (4) 本の難易度 : 数が大きいほど難易度が高い / (5) 推薦した教員のコメント / (6) 推薦者の名前、所属

- (1) イマヌエル・カント (1985) 『永遠平和のために』 (訳) 宇都宮芳明、岩波文庫、ISBN : 9784003362594
- (2) 学問領域 : 哲学・倫理学・論理学、歴史学
- (3) キーワード : 平和、歴史、理想
- (4) 難易度 : 2
- (5) 平和論の古典中の古典。何のために「永遠平和」(=一切の敵意の解消) という理念を掲げる必要があるのか、丁寧に論じており学ぶところが多い。「平和主義なんて、結局たんなる理想論でしょ?」と考えている人にこそ読んでもらいたい一冊。
- (6) 推薦者 : 佐藤慶太 (大学教育基盤センター)

- (1) イマヌエル・カント (2006) 『永遠平和のために / 啓蒙とは何か 他 3編』 (訳) 中山元、光文社古典新訳文庫、ISBN : 9784334751081
- (2) 学問領域 : 哲学・倫理学・論理学、歴史学
- (3) キーワード : 平和、歴史、啓蒙
- (4) 難易度 2
- (5) わかりやすさにこだわった「永遠平和のために」の翻訳が収録されている。先にあげた宇都宮訳と比較してみるのもよい。「自分で考える勇気を持って!」と読者を鼓舞する「啓蒙とは何か」も、大学生になった皆さんにぜひ是非読んでもらいたい作品。
- (6) 推薦者 : 佐藤慶太 (大学教育基盤センター)

- (1) 御子柴義之 (2015) 『自分で考える勇気 カント哲学入門』、岩波ジュニア新書、ISBN : 9784005007981
- (2) 学問領域 : 哲学・倫理学・論理学、歴史学
- (3) キーワード : 理性、批判、自律、啓蒙
- (4) 難易度 : 1
- (5) 「カントの原典にいきなり挑戦するのはちょっと...」と思っているみなさんに、まず読んでもらいたい一冊。身近な出来事とのつながりで、カント哲学のエッセンスと「自分で考えること」の大切さを教えてくれる。
- (6) 推薦者 : 佐藤慶太 (大学教育基盤センター)

- (1) 松元雅和 (2013) 『平和主義とは何か』、中公新書、ISBN : 9784121022073
- (2) 学問領域 : 政治学、哲学・倫理学・論理学
- (3) キーワード : 戦争、平和、平和主義、正戦論、軍事的介入
- (4) 難易度 : 2
- (5) 「愛する人が襲われても無抵抗でよいのか」「正しい戦争もあるのではないか」等、平和主義に向けられる批判に丁寧に組みながら、「説得力のある平和主義」の姿を探る論考。読み終わった時、平和主義のイメージがかなり変わるのではないかと。
- (6) 推薦者 : 佐藤慶太 (大学教育基盤センター)

- (1) ジョセフ・ヒース (2022) 『啓蒙思想 2.0 [新版]』 (訳) 栗原百代、早川書房、ISBN: 9784150505875
- (2) 学問領域：哲学・倫理学、認知科学、政治学
- (3) キーワード：啓蒙主義、理性と感情、クルージ、スロー・ポリティクス
- (4) 難易度：3
- (5) 理性よりも感情に訴える政治手法や広告が幅を利かせる現代。そんな現状の分析をふまえて、理性に基づく思考の意義をクリアーに解く好著。認知科学の実験をたよりに論を進めていくところも面白い。
- (6) 推薦者：佐藤慶太 (大学教育基盤センター)

- (1) 寺田俊郎 (2019) 『どうすれば戦争はなくなるのか』 現代書館、ISBN: 9784768410165
- (2) 学問領域：哲学・倫理学、政治学
- (3) キーワード：カント、永遠平和、世界市民
- (4) 難易度：2
- (5) カント研究者による『永遠平和のために』の解説書。この本では、カントが重視した「世界市民」という概念が解説の軸となる。現代の反戦 NGO や日本国憲法などにも関連付けて論が進められるので、『永遠平和のために』の現代的意義を改めて考えるきっかけになるだろう。
- (6) 推薦者：佐藤慶太 (大学教育基盤センター)

- (1) オレリア・ミシェル (2021) 『黒人と白人の世界史：「人種」はいかにつくられてきたか』、(訳) 児玉しおり、明石書店、ISBN：9784750352305
- (2) 学問領域：社会学、歴史学
- (3) キーワード：大西洋奴隷貿易、奴隷制、人種差別
- (4) 難易度：2
- (5) 本書は、近代ヨーロッパが奴隷貿易を始めたのは、アフリカ黒人への人種差別に基づくからではなく、奴隷制と奴隷貿易が人種差別を作り出したという説に基づく。その見解に沿って、奴隷制の歴史をたどり、人種という概念と人種差別がどのように構築されたのかを概説する。
- (6) 推薦者：園部裕子 (経済学部)

- (1) チアヌ・アチェベ (2013) 『崩れゆく絆』 (訳) 栗飯原文子、光文社、ISBN：9784334752828
- (2) 学問領域：文学、社会学
- (3) キーワード：植民地支配、人種差別
- (4) 難易度：2
- (5) 植民地時代のアフリカ農村を舞台とする物語。宗教とともに外部からもたらされた支配関係がどのように人びとの心を支配し、ありふれた平和な農村生活が社会構造の根底から破壊されたのかを、しずかな筆致で描く名著。
- (6) 推薦者：園部裕子 (経済学部)

- (1) 弓削尚子 (2021) 『はじめての西洋ジェンダー史-家族史からグローバル・ヒストリーまで』 山川出版社、ISBN：9784634640955
- (2) 学問領域：歴史、社会学、ジェンダー
- (3) キーワード：ジェンダー、家族史、女性史、男性史、学問の歴史
- (4) 難易度：2
- (5) 「女らしさ」と「男らしさ」がどのような歴史を経て社会規範として構築されたのか、またその規範はどのように教えられたのかを、学問の歴史とともに検討している。
- (6) 推薦者：園部裕子 (経済学部)

- (1) クリスティヌ・ル・ボゼック (2022)『女性たちのフランス革命』(訳) 藤原翔太、慶應義塾大学出版会、ISBN : 978-4766427943
- (2) 学問領域 : 歴史学、社会学、政治学
- (3) キーワード : フランス革命、女性の政治参加、女性の権利
- (4) 難易度 : 3
- (5) 革命以前から、女性が主催する社交サロンや文化・芸術などにおいて女性が活躍していた。その後の運動により、女性の権利が一時的・部分的に拡大したものの、19世紀には後退し、逆に不平等がどのように拡大されたのか、平易な文章で書かれている。
- (6) 園部裕子 (経済学部)

- (1) オリヴィエ ブラン (2010)『オランプ・ドゥ・グージューフランス革命と女性の権利宣言』(訳) 辻村みよ子、信山社、ISBN : 978-4797291421
- (2) 学問領域 : 歴史学、社会学、政治学
- (3) キーワード : フランス革命、女性の政治参加、女性の権利宣言
- (4) 難易度 : 2
- (5) 革命期に活躍した女性の一人で、オランプ・ドゥ・グージュは、「女性の権利宣言」を記して女性の権利拡大を主張したが、断頭台に送られた。ジェンダー平等が拡大しつつある現代社会の流れに立ち後れている日本で、今ぜひ読んでほしい本。
- (6) 園部裕子 (経済学部)

- (1) 白石隆 (2000)『海の帝国』、中央公論新社、ISBN: 9784121015518
- (2) 学問領域 : 歴史学、人類学、地域研究
- (3) キーワード : 東南アジア、イギリス帝国、ナショナリズム、近代化、国民国家
- (4) 難易度 : 1
- (5) 東南アジア世界の近代史を、ナショナリズムと帝国の視点からグローバルに捉える入門書。華僑華人が最も多く移民した地域の歴史的なイメージを把握する上で有用なテキスト。
- (6) 鶴園 裕基 (法学部)

- (1) 若林正丈 (2023)『台湾の歴史』、講談社、ISBN: 9784065340325
- (2) 学問領域 : 政治学、歴史学、地域研究
- (3) キーワード : 脱植民地化、冷戦、民主化、ナショナリズム、中台関係
- (4) 難易度 : 2
- (5) 台湾の近現代史と、その過程のなかで形成された台湾の政治・ナショナリズムのあり方を解説した入門書。国際政治と国内政治が密接に連動して展開する、台湾政治の特性を初学者向けに分かりやすく紹介している。
- (6) 鶴園 裕基 (法学部)

- (1) ベネディクト・アンダーソン (2007)『定本 想像の共同体』(訳) 白石隆・白石さや、書籍工房早山、ISBN: 9784904701089
- (2) 学問領域 : 人類学、政治学、地域研究
- (3) キーワード : 東南アジア、ラテンアメリカ、出版資本主義、巡礼圏、ナショナリズム
- (4) 難易度 : 3
- (5) 「想像の共同体」としてのネーションがどのように形成されてきたかを、ヨーロッパ、ラテンアメリカ、東南アジアの歴史を参照しながら論じる。世界各地の文学を引用し、想像力を喚起させる魅力に満ちたテキスト。
- (6) 鶴園 裕基 (法学部)

- (1) 湯澤規子 (2018) 『胃袋の近代：食と人びとの日常史』、名古屋大学出版会、ISBN9784815809164
- (2) 学問領域：経済史、社会史
- (3) キーワード：近代化、労働者、都市、日常生活
- (4) 難易度：1
- (5) 日本の「近代」とはどのような時代であったのだろうか。「日々食べる」という営みを史実にもとづいて検討することで、人びとの体温と体臭が感じられる「日常史」が描き出される。
- (6) 推薦者：水野敦洋（経済学部）

- (1) 武田晴人 (2008) 『日本人の経済観念：歴史に見る異端と普遍』、岩波現代文庫、ISBN9784006031749
- (2) 学問領域：経済史、経営史
- (3) キーワード：企業観、市場観、労働観
- (4) 難易度：2
- (5) 第二次世界大戦後の日本経済は、しばしば欧米型の市場経済とは異質で、独特の性格を持っていると指摘される。しかし、それは本当なのだろうか。本書では経済史の視点から、日本人の経済観念について、その形成過程が検討される。
- (6) 推薦者：水野敦洋（経済学部）

- (1) 石井寛治 (2012) 『日本の産業革命：日清・日露戦争から考える』、講談社学術文庫、ISBN9784062921473
- (2) 学問領域：経済史、産業史、近代日本史
- (3) キーワード：産業革命、日清戦争、日露戦争
- (4) 難易度：2
- (5) 黒船来航を契機として、日本は明治維新という政治的変革、そして「近代化」の歩みを開始した。本書では日本の「産業革命」について、経済史の視点に立ちつつ、日本社会全体の動向と関連づけながら描き出される。
- (6) 推薦者：水野敦洋（経済学部）

- (1) 大江健三郎 (2014) 『大江健三郎自選短篇』岩波書店、1380 円、ISBN：9784003119716
- (2) 学問領域：小説
- (3) キーワード：戦後の小説、少年、若者、性
- (4) 難易度 2
- (5) ノーベル賞作家大江健三郎は、少年、動物、若者、政治などが性的な事柄を中心に旋回するきわめて下劣で愉快な作品を書く作家である。晩年、自分が好きな自分の短篇を、岩波文庫では例外的に分厚い本にして売り出した。それ自体きわめて下品な行為と言わざるをえないが、読了した者は必ず「なんだただの天才か」と言うであろう。
- (6) 推薦者：渡邊史郎（教育学部）

- (1) カール・マルクス (2012) 『共産主義者宣言』(訳) 金塚貞文、平凡社、ISBN：9784582767667
- (2) 学問領域：社会思想
- (3) キーワード：共産主義、プロレタリアート、ブルジョアジー
- (4) 難易度：3
- (5) 本書が書かれたとき日本はまだ江戸時代。共産主義というと全体主義的な官僚国家が想起されるかも知れないが、本書からはそんな印象はない。マルクスが言いたいのは、人類の歴史は、ただの争いの連続ではなく、階級闘争の歴史だということである。共産主義者とはその闘争のなかで必然的に出現する何者かであって、そう呼ばれなくても常に存在しているのである。
- (6) 推薦者：渡邊史郎（教育学部）

- (1) 太宰治 (2009) 『お伽草紙』新潮社、ISBN: 9784101006079
- (2) 学問領域：小説
- (3) キーワード：戦争、日本古典文学、パロディ
- (4) 難易度：2
- (5) 太平洋戦争中、娘と一緒に防空壕に逃げ込みながら書かれたと言われる、日本の昔話のパロディ「お伽草紙」などをおさめた本である。「浦島さん」、「カチカチ山」、「瘤取り」などには、日本社会や日本人への嫌みが隠微に炸裂している。それは滅びつつある日本に対する正直な批判だったのか、あるいは悪ふざけだったのか、あるいは愛だったのか。
- (6) 推薦者：渡邊史郎 (教育学部)

- (1) チャールズ・ディケンズ (1991) 『クリスマス・キャロル』、(訳) 中川敏、集英社文庫、ISBN : 9784087520170
- (2) 学問領域：文学
- (3) キーワード：19世紀イギリス、キリスト教文化、社会問題、教育
- (4) 難易度：2
- (5) クリスマス・イヴの一晩で守銭奴の金貸しが改心するまでを描く、19世紀イギリスを代表する文豪の作品。小説家ディケンズの魅力だけでなく、資本主義やクリスマスなど現代につながるテーマ性も十分。
- (6) 推薦者：杉田貴瑞 (教育学部)

- (1) 新井潤美 (2016) 『魅惑のヴィクトリア朝：アリスとホームズの英国文化』、NHK 出版新書、ISBN : 9784140884942
- (2) 学問領域：文学、文化研究
- (3) キーワード：19世紀イギリス、文化研究、社会問題、歴史
- (4) 難易度：1
- (5) 「イギリス」と言われて何を思い浮かべるだろうか？現代イギリスの基礎の大半は19世紀に生まれたと言っても過言ではない。その文化についてシャーロック・ホームズシリーズなどの有名な文学作品を切り口に解説した一冊。
- (6) 推薦者：杉田貴瑞 (教育学部)

- (1) 坪内逍遙 (2010) 『小説神髓』、岩波文庫、ISBN : 9784003100417
- (2) 学問領域：文学、国際日本学、近代日本文化
- (3) キーワード：明治日本文学、近代ヨーロッパ受容
- (4) 難易度：3
- (5) 海外の文化を取り入れて、自国の文化を発展させる。21世紀の現代では自明のここのように思えるかもしれないが、実は明治のころからそのような試みは行われていた。「日本独自の小説を作り上げるには何をすべきか」という大きすぎる問題を大真面目に解説した実験作。
- (6) 推薦者：杉田貴瑞 (教育学部)